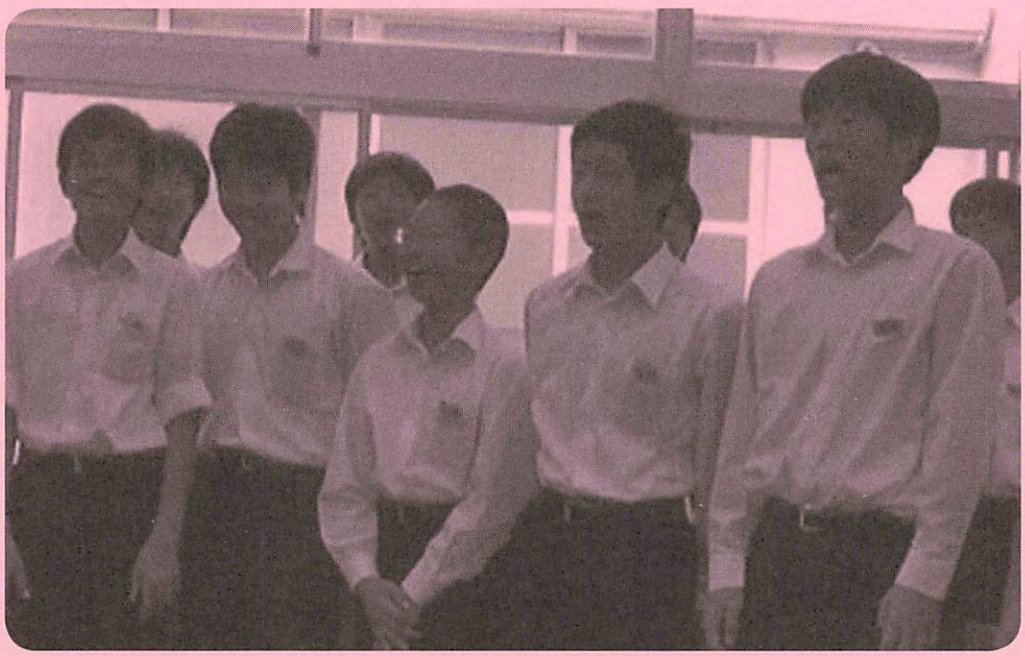
音楽科

教科領域研究テーマ

【学び合いを通して主体的に表現する生徒の育成
知の蓄積から知の活用へ】



音楽科

学び合いを通して主体的に表現する生徒の育成
知の蓄積から知の活用へ

実　践　者　来嶋　英生
愛媛大学研究パートナー　井上　洋一，楠　　俊明

第１章　はじめに

音楽は，人々に楽しさや感動，安らぎや生きる喜びをもたらし，人生を豊かにすることができる。また，他者に共感する心を通じて，他人を尊重し，考えを異にする人々と共に生きる資質を育むことができる。歴史から見ても，生活において音楽は不可欠だった時代があること，また，現在においても国際社会の平和共存と発展によい結果をもたらしていることなど，音楽，ひいては文化の創造が社会に貢献していることは自明である。

音楽科では，音楽表現・鑑賞を通して，感性や知性を働かせて音楽のおもしろさを認識したり，他者の感情などに共感し，コミュニケーションを図りながら相互理解を深めたりする特徴がある。よりよいものの創造のために，様々な知識を再構成したり，様々な見方をし，違う価値観を受け入れたりすることができるなど，ＥＳＤの視点と整合する。そして持続可能な社会づくりの構成概念や，本校が目指す「自立」の力，「共生」の力を身に付けさせる手段が，学習の過程にあるだけでなく，音楽そのもの（教材）にも内在している。音楽科の学習における思考過程や，音楽の質を向上させようとする経験の積み重ねが，いずれ生徒が社会に出た時に，よりよい生き方を選択でき，他の人の幸せづくりのために生きて働くことを期待し，このテーマを設定した。

第２章　研究の実際

動物は闘争本能，母性本能，性本能など，感じるままに行動する。一方，人間は理性によって自分の心をコントロールし行動する。感じ，思考・判断し，行動している。また，思考・判断する際には，今までの自分の経験や感情，知識などを基に行われる。思考は，イメージや感情，知性とも結び付いて働くものであると言える。そして音楽科での思考の過程には，音楽科で学習する内容だけでなく，歴史的背景といった社会科での学習内容との関連や詩の解釈といった国語科で身に付けた力などを活用し，知識を再構成する思考が必要になってくる。また，道徳性や自分の経験を基に，思考・判断することも必要になってくる。本研究では「思考」に焦点を当て，研究を進めることとする。

田畑（2007）は「音楽的思考力」とは「音を媒介として考える力」であり，音で思考するための基本能力として，(1)音でイメージする能力（イメージ力），(2)音で感奮する能力（情動喚起力），(3)音で認知する・解釈する能力（演奏解釈力），(4)音で共に感じる能力（共感的理解力），(5)音で表現する能力（表現技能力）の５点を求めている。イメージや感情などの感性と，学習によって得られた知識といった知性を結び付け，再構成することを音楽的思考とし，先述の５点の力を培うために授業実践を行うこととした。

１　研究の内容及び方法

鑑賞の授業だけでなく，表現活動においても，感性と知性で音楽を構成する様々な要素を有機的に統合し，音楽的思考力が活動する生徒の姿として少しでも現れてくるように，鑑賞と表現の

関連を図った教材選択・題材構成するとともに，次の仮説のもと，授業実践を行った。

(1) 問題解決的な学習の充実

パフォーマンス課題やルーブリックの作成方法について検討し，パフォーマンス課題を組み入れた授業実践を行えば，生徒は到達点が明確になり，既習内容を活用して思考力する姿が見えてくるであろう。

(2) 協同の学び合いの場の充実

演奏を客観的に互いにアドバイスする場（協同）を設定すれば，演奏解釈力，共感的理解力，表現技能力が高まるであろう。

2 研究の実際

中学１年生において，鑑賞と表現の関連を図り，音楽的思考力を高めるために，次の題材を設定した。

	○学習内容・学習活動【教材】	具体的評価規準	共通事項
第一次（四時間）	○ソネットと音楽の関わりや標題に応じた旋律の動きや強弱を感じ取り鑑賞する。 【「春」第１楽章，作曲：ヴィヴァルディ】	○楽曲の特徴や演奏の違いなどを意識して，鑑賞することができる。（鑑賞の能力） ○楽曲を特徴づけている諸要素を感じ取ることができる。（鑑賞の能力）	音色 速度 旋律
	○ソネットと音楽の関わりや標題に応じた旋律の動きや強弱を感じ取り，仲間と意見を話し合う。 【「冬」第１楽章・第２楽章，作曲：ヴィヴァルディ】	○楽曲の特徴や演奏の違いなどを意識して，鑑賞し，音楽の要素を根拠として，仲間と意見を述べ合うことができる。（鑑賞の能力）	
	○登場人物の性格について話し合い，自分たちで配役をして，「魔王」の朗読劇を行う。 ○声の音域や強弱，伴奏の効果について話し合う。 【「魔王」/作曲：シューベルト】	○仲間と協力をして，朗読劇を行うことができる。（音楽への関心・意欲・態度） ○朗読劇の活動を通して，登場人物の性格や曲想から，工夫した演技をすることができる。（音楽への関心・意欲・態度，音楽表現の創意工夫） ○楽曲を特徴づけている諸要素を感じ取ることができる。（鑑賞の能力）	
第二次（五時間）	○歌詞の内容や曲想を感じ取って歌おう。 ○楽曲から受けるイメージと強弱の関係を意識して歌おう。 ○言葉を明確に歌おう。 【「夏の思い出」/作詞：江間章子，作曲：園伊玖磨】 （個人→追究：小集団→評価/歌テスト：個人）	○日本語のもつ美しさや日本の情感を感じ取り，歌うことができる。（音楽表現の創意工夫，音楽表現の技能） ○共鳴を意識し歌うことができる。（音楽表現の技能） ○正しい音程で歌うことができる。（音楽表現の技能） ○情景と強弱の関係を意識し，歌おうとしている。（音楽表現の創意工夫） ○子音の裁き方を意識し，歌おうとしている。（音楽表現の技能）	音色 速度 旋律 強弱

出身小学校も様々であり，生徒の実態が分からないため，アンケートや歌唱のテスト，本題材「情景と音楽」の第１次において実態把握に努めた。音楽的思考力を育てるための第一歩として，楽譜に書かれた記号を，単に指示したシンボル的な記号や用語の意味（指示的意味）としてそのまま使わないようにさせ，心的な意味に置き換えた言葉（内包的意味）を加え，説明できることを目指した。ものとものとの間に関係を見つけ，多様な考え方ができることに気付かせるとともに，解決の仕方を発見させることをＥＳＤの視点からのねらいとした。

(1) 生徒の実態

１年Ａ組の生徒（39名）は明るく素直な態度で授業に臨むことができる。歌唱のテストでは，正しい音程で歌える生徒は多いが，思いや意図を表現しようとする生徒は８人であった。ワークシートからは思いをもっている生徒が多いことは伺えるが，「できないから恥ずかしい」という心理的な理由や，「高い声を出したいが，どうしたら出るのか分からない」といった理由が見られた。

４月当初のアンケートでは「音楽の特徴や演奏のよさを言葉で表そうとしている」と答えた生徒が20人であった。指導計画の第１次における鑑賞の授業（教材「春」第１楽章）では，多くの

生徒が挙手をし，発表内容やワークシートから，19人の生徒が音楽の諸要素を根拠に自分のイメージを説明しており，アンケートの集計とほぼ同じ結果であった。根拠として取り上げられた音楽の要素は，多い順に「リズム」，「速度」「強弱」であった。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

歌唱表現では楽譜に書かれている歌詞や記号，音楽の構成などをもとに，表現を深めていく。感性と知性を結び付け，言葉で説明する土壌を培うために，歌唱表現において，楽譜に書かれた記号を心的な意味に置き換え，音楽表現に役立つ言葉（内包的意味）で説明することに気付かせようにした。

強弱記号は教科書や資料集などでは「p…弱く」と，対象や状況に対してもつ関係（指示的意味）が書かれている。しかし，記号には，作曲の意図や演奏者の主張を感情的・心的言葉を求め，解釈する場合が多い。概念といわれる心的記号に対してもつ関係（内包的意味）を含んでおり，言語の心理的な特性や社会学的特性をもっている。感性と知性を結び付けさせ，生徒の音楽的思考を育てる過程をつくろうとした。

(3) 授業の実際

第一次での生徒の実態把握を受け，第二次では個人→小集団→全体→個人という流れで「夏の思い出」をより表現豊かに歌うことができるようにさせた。

まず，楽譜をもとに，どう歌うかを考えさせた。歌には歌詞がある。尾瀬へ行ったことのある生徒はほとんどいなかったため，イメージが膨らむよう，尾瀬の様子の映像を見せ，そして，「夏の思い出」の特徴である，強弱記号による指示の多さに注目させ，内包的意味について考えさせた。例えば，「夏の思い出」では，尾瀬の自然の美しさが書かれてあり，水芭蕉の咲いている様子に感動するのであれば，「咲いている」はmfやｆといった強弱記号になってもよいはずであるが，実際にはppと指示されている。これは何を意味するのかを考え，演奏させることで，「イメージ力」「演奏解釈力」が身に付き，多様な考え方に気付かせることができる。また，心的要因を加えて解釈した方が納得する音楽表現ができるということに気付せたいと考えた。そして，イメージ力を働かせ，歌詞の内容に応じた感覚が呼び起こされ，より豊かな歌唱表現になるという経験をさせ，音楽の質を向上させることもねらいとした。

本質的な問い，永続的な理解，パフォーマンス課題を以下のように設定した。

本質的な問い

よりよい演奏（歌唱）をするには，何が必要か。

永続的な理解

よりよい演奏（歌唱）をするためには歌詞や音楽の雰囲気・特徴などから，伝える内容・思いなど，知性や感性を働かせてしっかりともつことが大切である。その解釈は多様であり，答えは一つではない。様々な解釈を述べ，よりよいものをつくっていこうとする姿勢が大切である。そして思いが込もった演奏は，聴いている人に感動を与える。感動を与えるためには技能が必要であり，その習得によりさらによりよいものにしようとする心情が高まってくる。

評価目標	評価方法
鑑賞や表現活動に意欲的に取り組み，音楽の要素などを根拠にして音楽のおもしろさを追求しようとする。（音楽への関心・意欲・態度）	**◎パフォーマンス課題** 「あなたはホームスティすることが決まり，『夏の思い出』を歌うことになりました。歌で日本のよさ（情景や日本語の美しさ）を伝えるためにどのように歌えばよいでしょう？」 ○観察・パフォーマンステスト（観点別ルーブリック①②③④⑤，学びのルーブリック①） ○ワークシート（観点別ルーブリック①②，学びのルーブリック）
音楽の仕組みや工夫に気付き，表現をよりよいものにしようとする。（音楽表現の創意工夫）	
共鳴，リズムや音程などを意識し，思いを表現するための技能を身に付けようとしている。（音楽表現の技能）	
他者の演奏を聴き，よさや改善点をもつことができる。（鑑賞の能力）	

歌唱パフォーマンスのルーブリック

・観点別ルーブリック

① 歌唱のパフォーマンスに表れる歌唱表現への意欲・意思

2 良 い	・このように歌いたい，表現したい，聴き手に伝えようという意志が伝わってくる。
1 不十分	・このように歌いたい，表現したいという意志が感じられない。

② 歌詞の理解と創意工夫

3 すばらしい	・歌詞の意味，情景を理解し，自分なりの気持ちや思いを込めて歌うことができている。 ・強弱と歌詞の関係を理解し，その情景が観られるように工夫している。
2 よ い	・歌詞の意味を理解し，情景や心情を思い浮かべることができているが，伝わってこない。 ・強弱を意識して歌っているが，伝わってこない。
1 不十分	・すべての観点において質が低いもの。 ・表現の意欲が見られる場合でも，音程が大幅に間違っている等，技術的な観点において大きな問題があるもの。 ・強弱を意識できていない。

③ リズム・音程

2 良い	・正しい音程・リズムで歌うことができる。
1 不十分	・正しい音程・リズムで歌えていない。

④ 姿勢と口形

3 すばらしい	・胸郭の位置や首の位置を意識し，堂々と立てている。 ・口を縦に開き歌っている。
2 よ い	・胸郭の位置，首の位置どちらかができていないが，下半身で体を支え，立つことができる。 ・口を縦に開けようとしている。
1 不十分	・胸郭の位置や首の位置ができず，堂々と立てていない。 ・口が全く開いていない。

⑤ 言葉の発音

2 良い	・語頭の母音や子音を意識し，明確に発音しようとしている。 ・鼻濁音を意識して歌っている。
1 不十分	・語頭の母音や子音，鼻濁音を意識しておらず，言葉が不明瞭である。

・全体的ルーブリック（総合評価）

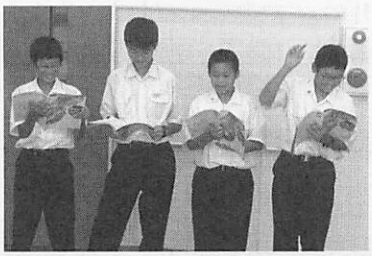
A すばらしい	・全ての観点で質の高いパフォーマンスが見られる。 ・技術的な側面（観点②～⑤）においてやや不足がみられる。
B よ い	・声もある程度出ており，音程やリズムが正確に歌えているが，表現の工夫に乏しい。 ・いずれかの観点において質が高いが，他のいずれかの観点において質が低い。
C 不十分	・すべての観点において質が低い。

・学び方のルーブリック

① 協同的な学び

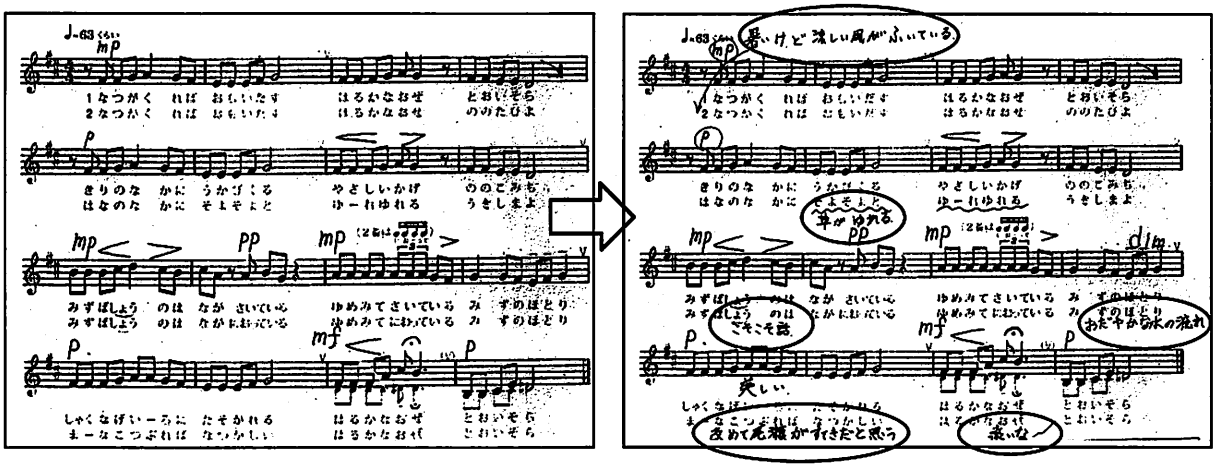
2 よ い	・仲間の演奏に対し，適切なアドバイスを発表したり，ワークシートに記入したりしている。 ・仲間の歌唱表現を参考にして，自らの歌唱表現を高めている。
1 不十分	・仲間の演奏に対し，適切なアドバイスを発表したり，ワークシートに記入したりしていない。 ・仲間の歌唱表現から学んでいない。

さらに，個人の思考をみんなで共有し，深めさせるために８人の小集団で，互いにアドバイスしながら練習させる場や，全体の場で発表し，深めていく場を設定した。第二次(4/5)では，グループで練習し，発表する場を設定した。以下，発表を行った際の指導である。

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　•生徒の反応	○指導の工夫 ◇評　価（方法）
1　ウォーミングアップをする。 （一斉）	5	○声を出しやすくするために，また，歌唱の基本を定着させるために，発声練習を行おう。	○口形を意識させるために，また，響きをそろえるために「ア」で発声をさせた。
2　小集団で練習をする。 （小集団）	10	○発表の最終確認をしよう。 • ここの音程があやしい。 • もっと強く歌おう。 • もっと強弱の差があればいいなあ。 • 姿勢をよくしよう。 • もっと口を縦に開けよう。  発表の様子１	○不安を少しでも解消するために，できていないところを指導した。
3　発表・アドバイスを通し，表現を工夫する。 （全体）	30	○良かった点や改善点を発表しよう。 • 無表情だった。 • ずっと楽譜を見ていた。 • もう少し口を開けた方が良い。 • 男子の声が聞こえない。 • 声が暗い。 • 音程がずれている。 • 強弱がなかった。 • テンポが少し速くなっていた。 ○良かった点や改善点を発表しよう。 • 女子は口が開いている人が多く，声がよく響いていた。 • 声が透き通っていてよかった。  発表の様子２ • 男子も女子もみんなの声がそろっていて，すごくきれいだった。 • 男子の姿勢が丸まっていたので，よくしたらいい。 • 始めはゆっくり，最後は速くなっていたので，もう少しテンポをゆっくりしたらいい。	**○自分たちの演奏をよりよいものにするために，アドバイスや感想を発表させた。【協同】** ◇仲間の演奏を聴き，音楽をよりよいものにするために助言をすることができているか。（観察，ワークシートの分析） ◇音楽的要素などを根拠によい点，改善点を見つけているか。（観察，ワークシートの分析） ◇表現を豊かにするために，音楽の要素などと演奏の関連を意識できたか。（ワークシートの分析） ◇言葉を伝えるために，語頭の母音や子音，鼻濁音などを意識できたか。（ワークシートの分析）

		• 「pp」のところが上手だった。水芭蕉がひっそり咲いている感じがした。 • 最後の「dim.」から次の小節にいくまでの間を長くすればいい。	
4　本時の学習を振り返る。 （個人）	5	○活動を振り返ろう。 • まだ音程があやしい。 • 強弱がもっとつけば，情景もはっきり伝わる。 • 尾瀬のきれいな情景を歌った曲なので，表情を明るくすればよい。	

イ　生徒の学びの実際



生徒の振り返り，記述の比較（ワークシートより）

上の楽譜は，授業後，気付いたことを記入させた生徒のワークシートである。この生徒は，歌で日本のよさ（情景や日本語の美しさ）を伝えるために，内包的意味の捉えの記述が増えている。導入時，「強弱に意識して歌えばよい」と答えていたが，「歌詞と強弱をふまえて，情景を考えると，イメージしやすかった」と記述している。発表における仲間へのアドバイスでは，歌詞と強弱の関わりについて（内容的な意味の捉え）の記述は見えないが，仲間からのアドバイスで，歌っているときに無表情に歌っていたり，声の響きを明るくすれば，尾瀬の情景や，懐かしさを表現できたりすることに気付いていた。

小集団による発表の際にワークシートに記入した，他の班へのアドバイスは右のようなものであった。

1　各班の発表をきいて、演奏のアドバイスをしよう。

1・2班	女子の声はきれいだけど男子は笑っていて音が外れていた。 男子の立ち方が悪い
~~2・3班~~ 3・4	前半音を外していたところがあったので気を付ける 出だしがバラついていた。
5・6班	男子の背中がまるまっていたのと、顔が下をむいて楽符をじーと見ていたので姿勢を気をつけたら良い。 dim からの所をもう少し長く。
7・8班	最初の出だしがバラバラだったので、そろえる練習をしたら良くなると思う。

生徒が記入したアドバイス表

「歌詞の理解と創意工夫」の記述がもっとも多く，次に「テンポが速かった」「情景をもっと強弱をつければよい or つけられていた」という意見も多かった。次に「④姿勢と口形」の記述が多かった。また，「透きとおった声」「響きのある声」「響きがそろっている」などの声の響きに関する記述も見られた。思考に関する項目②では，「もっとやさしい感じや情景をあらわすために強弱をつければよい or ついていた」といった内包的な意味の捉えを示す記述や，音楽を知覚して思考した「テンポは速くなった」や「出だしをそ

ろえるとよい」という記述，またアゴーギグに関する記述も見られた。内包的な意味の捉えができていた生徒は39人中23人であった。

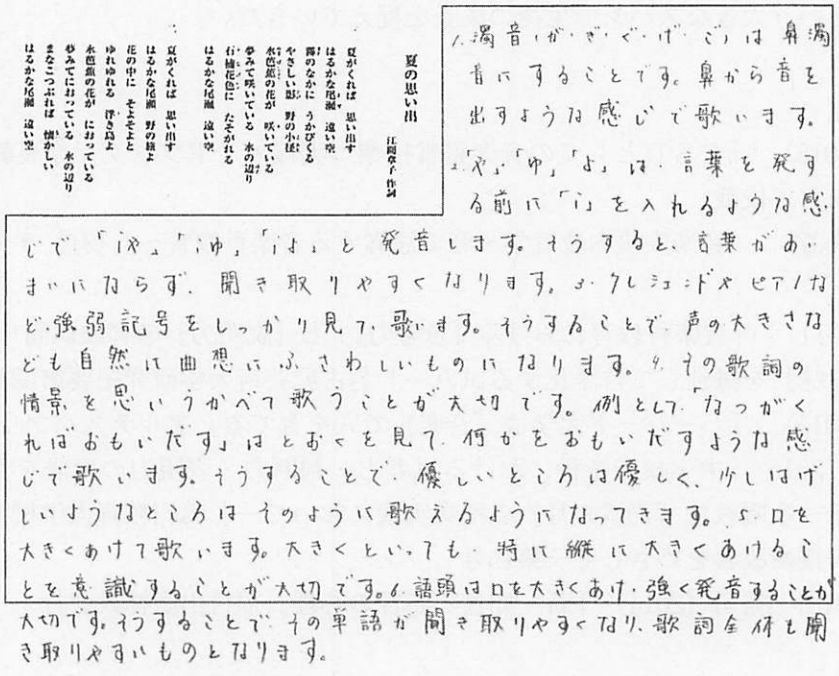
① 歌唱のパフォーマンスにあらわれる歌唱表現への意欲・意思に関するもの	33
② 歌詞の理解と創意工夫に関するもの	93
③ リズム・音程に関するもの	29
④ 姿勢と口形に関するもの	81
⑤ 言葉の発音に関するもの	6

また，39名生徒一人一人を，作成したルーブリックにそって評価をすると，次のようになった。

ルーブリック		3	2	1
歌唱	① 歌唱のパフォーマンスに表れる歌唱表現への意欲・意思	22人	17人	
	② 歌詞の理解と創意工夫	23人	12人	4人
	③ リズム・音程	27人	12人	
	④ 姿勢と口形	12人	18人	9人
	⑤ 言葉の発音	12人	27人	
学び	① 協同的な学び	34人	4人	1人
全体的ルーブリック（総合評価）		A	B	C
		11人	24人	4人

評価の実際

題材の初めに「夏の思い出」を聴き，歌詞や楽譜を見て，どう歌えばよいかを考えた記述と題材後のまとめとして記入した文を比べると，記号を内包的な意味で捉えた生徒が増えていた。また，時間がなくあまり指導することができなかった「⑤言葉を明確に伝えるための工夫」についても，次のように記述した生徒が見られた。最終の歌唱テストでは，思いが伝わるまでの技術的な成長が見られた生徒は多くなかったが，意識しようとする姿が見られた。


夏の思い出

江間章子 作詞

夏がくれば 思い出す
はるかな尾瀬 遠い空
霧のなかに うかびくる
やさしい影 野の小径
水芭蕉の花が 咲いている
夢みて咲いている 水のほとり
石楠花色に たそがれる
はるかな尾瀬 遠い空

夏がくれば 思い出す
はるかな尾瀬 野の旅よ
花の中に そよそよと
ゆれゆれる 浮き島よ
水芭蕉の花が においている
夢みてにおっている 水のほとり
まなこつぶれば 懐かしい
はるかな尾瀬 遠い空

「濁音」が「ざ・ぢ・げ・ご」は鼻濁音にすることです。鼻から音を出すような感じで歌います。「や」「ゆ」「よ」は，言葉を発する前に「i」を入れるような感じで「iや」「iゆ」「iよ」と発音します。そうすると，言葉があいまいにならず，聞き取りやすくなります。また，クレッシェンドやピアノなど，強弱記号をしっかり見て歌います。そうすることで，声の大きさなども自然に曲想にふさわしいものになります。その歌詞の情景を思いうかべて歌うことが大切です。例として「なつがくればおもいだす」はとおくを見て，何かをおもいだすような感じで歌います。そうすることで，優しいところは優しく，少しはずむようなところはそのように歌えるようになってきます。口を大きくあけて歌います。大きくといっても，特に縦に大きくあけることを意識することが大切です。また，語頭は口を大きくあけ，強く発音することが大切です。そうすることで，その単語が聞き取りやすくなり，歌詞全体も聞き取りやすいものとなります。

題材後のまとめ（ワークシートより）

第３章　おわりに

仮説に対する考察は次のとおりである。

(1)　問題解決的な学習の充実

パフォーマンス課題やルーブリックの作成方法について検討し，パフォーマンス課題を組み入れた授業実践を行ったことで，生徒は到達点が明確になり，歌唱の際には互いにアドバイスする姿が多く見られた。ただ，内包的な意味の捉えを「②　歌詞の理解と創意工夫に関するもの」含めたつもりであったが，生徒のルーブリックの捉えが技術面に偏っていたため，内包的な意味を用いてアドバイスをする姿は活動の中ではあまり見られなかった。ワークシートにおいては39名中23名が記入していた。

(2)　協同の学び合いの場の充実

１年生にとっては初めてのグループ練習であったため，多少，戸惑う様子も見られた。練習の進め方に慣れ，今後の活動で活動できることを期待する。上にも述べたが，アドバイスする姿は見られたが，発表における全体でのアドバイスの場面では，少し消極的な様子が見られたことが，今後の課題である。

鑑賞では，音楽的な要素を根拠として，意見を述べられる生徒が多かった。歌唱においても音楽的な要素をもとにアドバイスをする姿が見られ，音楽的思考が育っている。ワークシートからは情景や心情と強弱の関わりの記述が見られるようになってきているが，活動の中で，内包的な意味からのアドバイスの姿はあまり見られなかったことが課題として残る。小集団や学級，学年で合唱をしていく際に，生徒が思考している姿が見え，表現技能が向上できるようさらに授業実践を行いたい。音楽的思考が活動の中で，さらに生徒の言動で見えてくるような手立てが今後の課題である。

音楽表現をよりよくしていく視点は様々であり，また方法も様々である。生徒の知識や経験が増えることにより，音楽の捉えが広がり，多様になってくれば，さらに質の高い感性と知性との結び付け（再構成）ができるであろう。多様な価値観を互いに発表・表現できる姿を目指して，中学校３年間という大きなスパンで生徒の成長を捉えていきたい。

引用・参考文献

宮下　俊哉（2015）「ＥＳＤとしての音楽鑑賞授業　実践ガイドブック」奈良教育大学大学院教育学研究科宮下俊哉

田畑　八郎（2007）「音楽表現の教育学～音で思考する音楽科教育～」（有）ケイ・エム・ピーkmp

田畑　八郎（2011）「音楽科教育における『思考力』」と『説明力』の育成試論－『指示的意味』と『内包的意味』を識別して言語化する試み－」名古屋芸術大学研究紀要第32巻

菅野恵理子（2015）「ハーバード大学は『音楽』で人を育てる」アルテスパブリッシング

小山　英理他（2016）「中学校音楽科における思考力・判断力・表現力の育成を目指したルーブリックの開発－歌唱教材『荒城の月』の授業実践において－」鳴門教育大学授業実践研究－学部・大学院の授業改善をめざして－第15号

行場　次朗，箱田　裕司（2014）「新・知性と感性の心理」福村出版株式会社